



J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

伊吹・柏原・山東地区担当 元中 豊一郎
携帯 080-4643-6531

今月の話題

- ◆ 春の農作業安全確認
- ◆ 除草対策に繋がる作業前の事前準備 ～高品質米生産に向けて～
- ◆ 米の消費拡大に向けて（紹介）
- ◆ 農政ダイジェスト

メモ

- ✓ ラウンドアップキャンペーン
3月30日まで
- ✓ JA出荷申出書・水田活用米穀申込書・
カントリー利用申込書提出
3月11日まで

お早めに!



きらめきキヌヒカリ販売先の和食さとにおいて2月21日に試食会が開催されました。

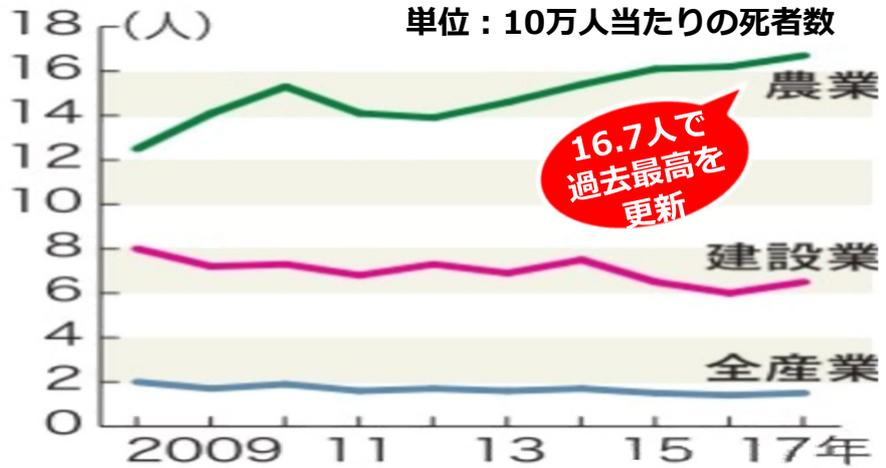
J Aレーク伊吹では複数年契約のきらめきキヌヒカリに取り組んでおり、和食さとで現在使用いただいておりますが、全店舗で使用するにはまだまだ不足しています。キヌヒカリの作付拡大を要望されています。

春の農作業安全確認

農業就業人口が減少し、高齢農業者の割合が増加する中、農作業死亡事故は全国で300人以上発生しており、産業別にみても農業の割合は高く推移しています。これから春の農繁期が始まりますので、作業工程、機械の操作手順のチェックを実施し、農作業事故を防止しましょう。

産業別の死亡事故発生件数の推移

17年 高齢化で拍車
前年に続き最多更新



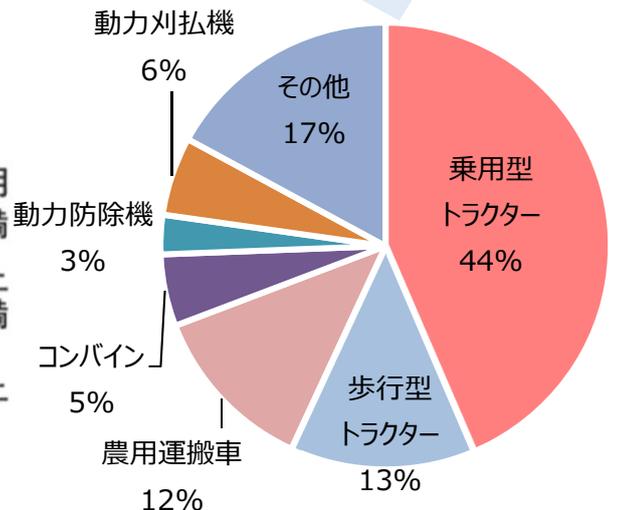
10万人当たり死者数は全体では16.7人ですが、65歳以上に限れば21.2人に上昇しており、特に80歳以上が4割近くを占め高齢者の事故死が増加傾向となっています。



全国の農作業死亡事故の発生状況



平成29年の滋賀県の死亡事故はトラクター・軽トラ・乾燥機で各1件発生しています



万一の事故に備え労災保険に加入しましょう！！

農業者の方でも一定の条件を満たせば、労災保険(特別加入制度)に加入できます。
※ただし、加入には条件がありますので、詳しくは営農経済渉外までお問合せ下さい。

「JALレーク伊吹での取り扱い」

- 特定農作業従事者・・・年間の農業生産物の総販売額が300万円以上または経営耕地面積が2ha以上
- 指定農業機械作業従事者・・・特定の機械を使用し、土地の耕作等を行う人。

死亡事故の多いトラクターの主な安全対策ポイント

ポイント1

- ・シートベルトの装着
安全フレームの装備



ポイント2

- ・作業機(ロータリー) 下は危険!!
点検方法
①作業機を上げる
②昇降部の油圧ロックをする
③駐車ブレーキをかける
④エンジンをOFFにする



ポイント3

- ・左右ブレーキの連結
①道路走行時
②ほ場の出入り
③傾斜地作業
④畦を乗り越える
⑤トラックへの積み込み



農作業事故緊急時の対応

- ✓ どんなに近くても携帯電話を携帯する!
- ✓ 携帯電話が、体から飛び出さない工夫を
- ✓ 高齢者こそ、必ず携帯電話の携帯を



農作業事故の大半は、基本操作ミスや安全確認不足から発生します。初心に帰り無理のない作業を心掛けましょう。

除草対策に繋がる作業前の事前準備 ~高品質米生産に向けて~

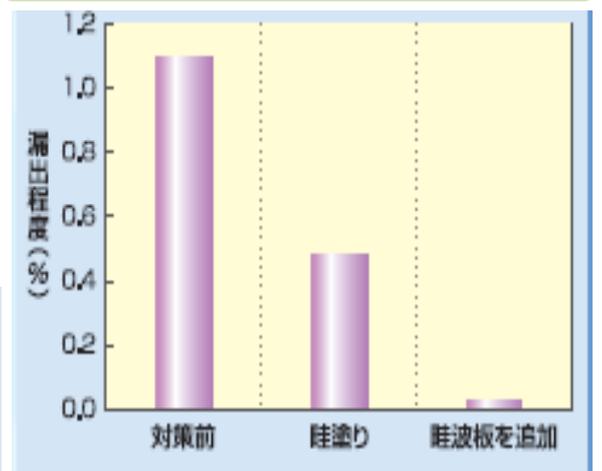
畦塗作業や畦波板の設置を行なうことによりほ場からの漏水を防ぎ、除草剤の効果を高めることができます。毎年の課題である雑草の事前対策として畦畔の確認を行いましょう!



圃場の水漏れ対策



複数の畦畔管理技術を併用することで、より効果的に農薬の流失を低減することができます



(「平成19年度農薬流出防止技術評価事業に関する報告書」よりデータ引用)

作業の留意点

- 畦塗り：
田植えの1~2か月前に土の湿った状態のときに行う
速度はゆっくりと丁寧に行う
- 畦波板：
地中深く差し込む
つなぎ目に土を盛り付け水漏れを防ぐ

機械銀行の料金紹介

内容	料金
畦塗り作業	60円/m
均平作業	25,000円/10 a

作業のお申込は、営農経済渉外までお問い合わせください。

※ほ場条件によっては作業ができない場合があります。



レーザーレベラー均平作業

米の消費拡大に向けて（紹介）

新プログラム「おにぎりダイエット+ウォーク」の概要

『太る』の誤解払拭
全農ダイエット法

- ①1日の消費カロリーを知る
年齢・性別・体重・日々の運動量
から消費カロリーを計算



- ②一日に食べてもよいおにぎりの
個数を決める
おにぎり1つを180kcalとし1日に食べる
おにぎりの個数とおかずのカロリーを決める

例えば
1日の消費カロリーが1500kcal以下の場合、おにぎりは3,4個、おかずは780kcal以内に抑える



- ③毎日15分歩く
下腹に力を入れる、肩甲骨を寄せる
など、上半身を意識した正しい姿勢
で毎日15分歩く



JAグループの米の消費拡大活動を紹介する『NO RICE NO LIFE』から閲覧できます

ひと月の
動き

農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋
～定価（税込）606円 購読申込受付中～

19年産水田農業対策の方針が決定

J A全中は、2019年産の水田農業対策の方針を示した。需給安定には、主食用米の生産量を前年比7～15万tの削減が必要。各県の削減率は、農林水産省が示した削減率に達していないと指摘した。

農産物輸出、年間9000億円ベース

農水省のまとめによると、18年11月の農林水産物・食品の輸出額は852億円で、前年同月比9%（71億円）増だったことがわかった。9か月連続で前年を上回り、年間9000億円に達する勢いだ。

レガ伊吹の動き

新規就農者の支援対象を拡大

農水省は、新規就農者の就農前後に年間最大150万円を交付する農業次世代人材投資事業（旧・青年修就農）で、支援対象を原則45歳未満から50歳未満に広げる。また、親元就農する後継者が交付金を受ける際、農地の所有権を後継者に移す義務を撤廃。利用権の設定でも交付対象となる。いずれも19年度開始。

農業組合長会を開催

2月13日～15日にかけて、各地域別に農業組合長会議を順次開催しました。N O S A IからはH31年産水稻生産実施計画書等の提出依頼、そして市再生協議会よりH31年産米における生産調整の継続的な協力願いがあった。また、J Aからは31年産の出荷申出書・水田活用米穀申込書・カントリー利用申込書の取りまとめについての説明を行いました。

農繁期中 土・日曜営業のご案内	3月	4月	5月
経済センター Tel63-2102	●	●	★
伊吹資材センター Tel55-4080		●	★
米原資材センター Tel52-1014		●	★

●印は土曜の営業月
★印は土日曜の営業月

・営業時間は、AM8:30～AM12:00です。
・現金扱いの販売・配送業務は行っておりません。
・3月は経済センターのみの営業となります。